

# ツマジロクサヨトウ情報第1号

令和2年7月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## フェロモントラップで誘殺を確認しました ほ場での発生状況に注意しましょう

### 1 ツマジロクサヨトウの愛知県での発生確認経過

令和2年7月7日、知多地域に設置したフェロモントラップにおいて、ツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda* (J. E. Smith)) 雄成虫3頭の誘殺を本年度初めて確認しました(図1)。トラップの設置地点周辺は、主に飼料用ソルガム等の飼料作物が栽培されていますが、7月15日時点で本種幼虫の寄生は確認されていません。

### 2 昨年の発生経過

令和元年10月8日、侵入警戒のため設置していた東三河地域のフェロモントラップに本種と疑われる成虫が誘殺されたため、農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼をしたところ、本県未発生の「ツマジロクサヨトウ」であることが判明しました。また、10月30日、知多地域に設置したフェロモントラップで本種成虫の誘殺が確認されたため、11月1日に周辺の飼料作物の被害状況を調査したところ、飼料用トウモロコシ2ほ場でツマジロクサヨトウ幼虫と食害を確認しました。

### 3 国内における発生状況

令和元年7月3日、鹿児島県の飼料用トウモロコシで国内で初めて確認されました。今年度は既に26県でトウモロコシ(飼料用・生食用・緑肥用)、緑肥用ソルガム、イネ科牧草等の品目で幼虫の発生が確認されています。更に2県ではほ場での幼虫の寄生は未確認ですが、フェロモントラップへの誘殺を確認しています(7月15日現在)。

### 4 本種の形態及び特徴

- (1) 成虫の開翅長は約37mm、雄の前翅は地色が褐色、中央部に斜めの黄色斑紋と翅頂に逆三角形の白色斑紋を持つ(図2)。終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部に網目模様があり、頭部縫合線に沿って淡色になるため逆Y字状の見える斑紋を持つ。また、尾部に黒色斑点を持つ(図3)。
- (2) 国内の報告で幼虫の寄生が確認された植物は、サトウキビ、飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムに限られるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など**広範囲の作物に寄生することが知られている**。
- (3) 亜熱帯から熱帯地域に適応した種で、熱帯では年4～6世代発生する。亜熱帯から熱帯地域を除く地域では越冬することができない。

### 5 防除対策

- (1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、**早期発見に努めましょう**。
- (2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに愛知県農業総合試験場 環境基

盤研究部 病虫害防除室まで連絡してください。

- (3) 本種の発生が確認された場合、ツマジロクサヨトウに対する農薬登録はありませんが、愛知県は植物防疫法第 29 条第 1 項の規定により薬剤散布の指導を行います。本種に対して使用できる農薬については、農林水産省HPを参照してください（注）。

注：[http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)

- (4) 発生が確認されたほ場では、本虫の分散を防ぐため、収穫後は速やかに耕起し、残さをすき込みましょう。

## 6 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室

電話：0561-62-0085（内線 471）



図1 フェロモントラップで捕獲されたツマジロクサヨトウ雄成虫



図2 ツマジロクサヨトウ雄（左）及び雌成虫（右）、農林水産省HPより引用



尾部の黒色斑点

図3 ツマジロクサヨトウ幼虫